

b. 注意力が欠如していた

| | |
|----------------------------------|-----|
| ・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | はい |
| ・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |

c. 経験・知識が不足していた。

| | |
|-----------------------------|-----|
| ・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい |
| ・ 活動に対する経験が不足していた。 | はい |

d. 心身の不調があった

| | |
|------------|-----|
| ・ 体調が悪かった。 | いいえ |
| ・ 悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|----------------------|-----|
| ・ 装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・ 必要とする装備・資機材がなかった。 | はい |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|----------------------------------|-----|
| ・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | はい |

g. 行動しにくい環境だった。

| | |
|-------------------|-----|
| ・ 狭隘な場所であった。 | はい |
| ・ 暑かった（寒かった）。 | はい |
| ・ 野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・ 現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

| | |
|-------------------|-----|
| ・ 足元が躓いたり滑りやすかった。 | はい |
| ・ 足元の強度が不足していた。 | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

| | |
|--------------------------------------|-----|
| ・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・ 指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

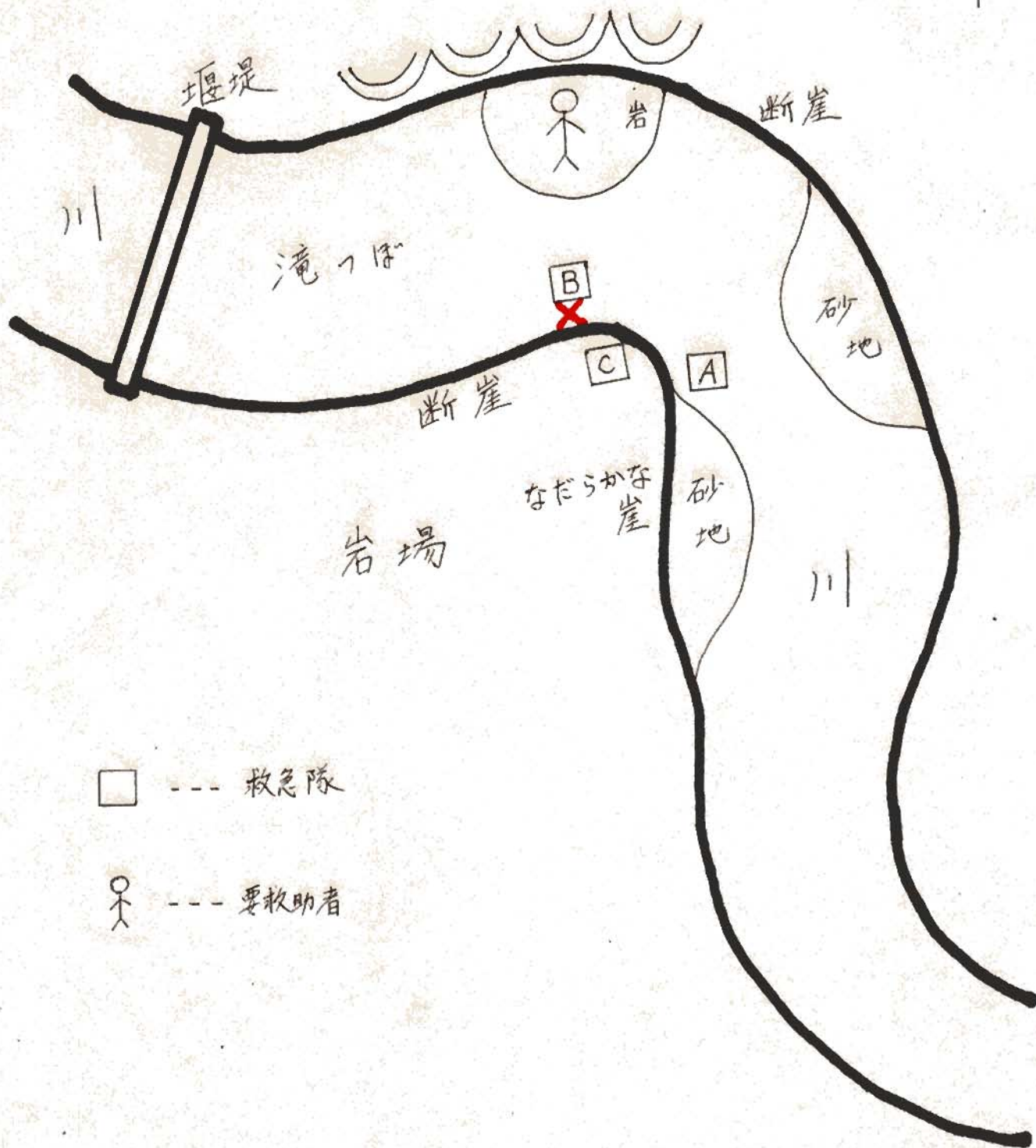
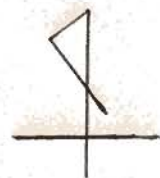
| | |
|-----------------|-----|
| ・ 隊員の連携が不十分だった。 | はい |
| ・ 隊員が不足していた。 | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

| |
|--|
| |
|--|

現場平面図



□ --- 救急隊

人 --- 要救助者

○岩場から滑落し、河川内に墜落した事例
 (同様の体験は、初めて体験した。)

(09H0164)

・発生日時 :平成 19年 7月 5日 午後 5時頃

| 経過 | 現場の状況 | 隊員 | 車長 | 機関員 | 備考 |
|--------|-------|---|--|--|----------------------|
| | | 隊員／消防士長 ・年齢 34歳 ・勤続 12年 ・現場 12年 ・同様の活動:過去に1,2回程 | 車長／消防司令補 ・年齢 42歳 ・勤続 19年 ・現場 12年 ・同様の活動:過去に1,2回程 | 隊員／消防副士長 ・年齢 30歳 ・勤続 12年 ・現場 12年 ・同様の活動:過去に1,2回程 | |
| 出動指令 | 出動指令 | | | | 通報内容からは、想像し難い距離があった。 |
| | | | | | |
| 出動途上 | | | | | |
| | | | | | |
| 現場到着 | | | | | |
| | | | | | |
| 活動初期 | | 救急車から離れ、徒歩で現場へ向かった | | | |
| | | | | | |
| 活動中期以降 | | 現場到着 | | | |
| | | 岩場の側方へ回り込み、下部から現場状況及び傷病者の確認 | 岩場の上部から現場状況及び傷病者の確認 | | |
| | | 現場状況を確認しようとして、岩場の淵へ足をかける | | | |
| | | 滑落し、河川の水面へ墜落 | | | |
| | | 傷病者と接触し、観察・処置を実施。 | | | |
| | | | | 墜落地点まで降り立ち、傷病者と接触、観察・処置を実施 | |
| | | 車両まで通信機器を取りに帰り、応援要請 | | | |
| | | 追加資器材・装備を持ち現場へ戻る | | | |

負傷は無し。

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○直接的な原因:情報入力に問題があった。状況判断に問題があった。行動の意志決定に問題があった。行動の実行に問題があった。
 ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
- ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- ・活動に対する経験が不足していた。
- (装備・資器材について)
- ・必要とする装備・資器材がなかった。
- (活動環境について)
- ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
- ・狭隘な場所であった。
- ・暑かった(寒かった)。
- ・足元が躓いたり滑りやすかった。
- (指揮・管理について)
- ・隊員の連携が不十分だった。